

特別支援教育
コーナー東部教育局主催ワークショップ（特別支援教育）
「校内支援体制における特別支援教育の取組」
～将来の自立と社会参加の実現に向けて～

将来の自立と社会参加の実現に向けて、児童生徒が身に付ける必要のある力やそのための指導・支援の在り方について学ぶことを目的に、ワークショップを開催しました。鳥取湖陵高等学校の西谷智子教諭、鳥取市立東中学校の奥田仁美教諭から、それぞれの学びの場における生徒の状況や校内支援体制の取組についてお話をいただき、目の前にいる児童生徒の教育的ニーズの把握や校内支援体制における指導・支援の在り方等、今後の指導・支援につながる多くのヒントを得ることができました。

鳥取湖陵高等学校（教育支援部）
西谷 智子 教諭（特別支援教育担当）

【西谷教諭 講義資料より】

湖陵高校での実践④ 本人と相談しながら

●しばらくしたら手を離していく。

- ・不安な気持ちがあれば、そこは理解する。
- ・援助要請が無ければ基本的に支援しない。（見守りの継続）



●上手に困ってもらう。

- ・自分の苦手や得意を理解してもらう。
- 苦手なところ・出来ないところだけを言わない。
- 必ずいいところ・出来ているところとセットで伝える。



- ・分からない時に聞ける人をつくる。
- ・気付いていないことに気付かせる。

大きく環境が変わる初めのうちは、過支援気味に関わるようにしています。まずは、慣れることを優先し、できるだけ自己肯定感を下げさせないようにするとともに、相談すれば大丈夫という安心感がもてるようにしています。

一人一人の状況を見ながら、生徒の不安な気持ち等は理解しつつ、しばらくしたら手を離すようにしています。

【西谷教諭】

できていないのに「できました。」とごまかしてしまう生徒や、困っていることに気付いていない生徒も多く、自覚のないまま（自分のことに向き合わないまま）卒業して困ることがないように、できていないこと、困っていることに生徒自身が気付くよう意識して指導・支援にあたっています。

参加者アンケートより

- ・高校できめ細やかに生徒に寄り添った支援がなされていることがよく分かりました。一人一人の子どもの背景を適切に掴むこと、そのために、子どもと対話することを丁寧にしていきたいと感じました。

鳥取市立東中学校（特別支援教育主任）
奥田 仁美 教諭

【奥田教諭 講義資料より】

心掛けていること

生徒が「何とかなる」経験を積むための支援であること

生徒自身が納得のいく支援であること

- 生徒の思いや願いを大切に
- 生徒との対話の必要性

生徒が集団（仲間）の中で育つための支援であること

【奥田教諭】

自立について、「自分を知ること」「自分で動くこと」「自分を助けるすべを知ること」「他者と楽しむを共有すること」と整理して校内で共有し、生徒が自ら考え、選択できるよう指導・支援にあたっています。

支援する際には、支援を受ける生徒自身がどう感じるかに目を向けることが必要です。生徒との対話を大切にし、生徒自身が納得のいく支援になっているかどうかを確認するようにしています。



また、集団（仲間）の中でどうしたら生きやすくなるか、行事等の学習活動を通して、生徒自身が自分に向き合っていることができるように支援しています。

生徒が「何とかなる」という感覚がもてるような経験を積み重ねることができ、そのような支援となるよう心掛けています。

参加者アンケートより

- ・本人のためになると思う独りよがりの支援ではなく、本人にとって納得のいく支援であることが重要なので、思いや願いを大切に、対話を大事にしていきたいと思いました。

特別支援教育の理念に、「自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するために適切な指導及び必要な支援を行う。」とあります。その理念を実現していく上でも、「自己理解を促す」ことが必要になります。将来の自立と社会参加の実現に向けて、保護者、校内外の関係者がつながりながら、児童生徒が自分のことを知り受け止めることができるよう支えていきましょう。